

●第12回浜松国際 ピアノコンクール

大坪 盛

「浜松国際ピアノコンクール」は、1991年に浜松市制80周年を記念して、楽器と音楽のまちとしての歴史と伝統を誇るにふさわしい国際的文化的事業としてスタート、以後3年毎に開催され、今回で12回目を迎えた。今回はコロナ禍のため6年ぶりの開催となった。

「浜松国際ピアノコンクール」の開催主旨は、「世界をめざしている多くの若いピアニストに、日頃の研鑽の成果を披露する場の提供と、彼らの育成、世界の音楽文化の振興、国際交流の精進」を目的としている。

今回のコンクールの日程は次の通り。会場はアクトシティ浜松大ホール、中ホール。

◎オープニングコンサート

♪プログラム＝ブラームス／ハイドンの主題による変奏曲、シューマン／ピアノ協奏曲イ短調（独奏＝牛田智大）、サン＝サーンス／ピアノ協奏曲第5番へ長調「エジプト風」（独奏＝ジャン・チャクムル）
♪出演＝ピアノ／牛田智大（第10回浜松国際ピアノコンクール第2位）、ジャン・チャクムル（第10回浜松国際ピアノコンクール優勝者）、オーケストラ＝高関健指揮富士山静岡交響楽団（11月4日）

◎コンクール

第1次予選は、練習曲1作品以上を含む自由な選択で行われた。25カ国1地域から87名が参加、24名が第2次予選に進む。（11月9～13日）

第2次予選は、課題曲としてこのコンクールのために作曲された猿谷紀郎の委嘱作品他を演奏。12名が第3次予選に臨んだ。（11月15～17日）

第3次予選は、モーツァルト／ピアノ四重奏曲第1番、又は第2番を共演。6名が本選に進む。（11月19、20日）

本選は、梅田俊明指揮東京交響楽団と、コンチェルトを1曲演奏する。演奏曲と結果は次の通り。（11月23、24日）

- ♪第1位：鈴木愛美（22歳、ベートーヴェン／第3番）
- ♪第2位：ヨナス・アウミラー（26歳、ドイツ、ブラームス／第1番）
- ♪第3位：小林海都（29歳、バルトーク／第3番）
- ♪第4位：JJジュン・リ・ブイ（20歳、カナダ、ラフマニノフ／パガニーニの主題による狂詩曲）
- ♪第5位：コルクマズ・ジャン・サーラム（25歳、トルコ、ブラームス／第1番）
- ♪第6位：ロバート・ビリー（27歳、チェコ、プロコフィエフ／第3番）
- ♪日本人作品最優秀演奏賞：ロバート・ビリー
- ♪奨励賞：ヴァレール・ビュルノン（26歳、ベルギー）
- ♪室内楽賞：鈴木愛美
- ♪聴衆賞：鈴木愛美

第1位入賞者には、札幌市長賞、ワルシャワ市長賞が贈られるほか、札幌、川崎、別府、名古屋、ワルシャワ、パリ、ロンドンほかでのリサイタル、京都市交響楽団、大阪フィルハーモニー交響楽団、オーケストラ・アンサンブル金沢、九州交響楽団、日本フィルハーモニー交響楽団、名古屋フィルハーモニー交響楽団ほかとの共演が贈られる。

また、入賞者には賞状、メダル（1位＝金メダル、2位＝銀メダル、3位＝銅メダル）の他、賞金として、第1位＝400万円、第2位＝250万円、第3位＝150万円、第4位＝100万円、第5位＝80万円、第6位＝60万円がそれぞれ授与された。

審査委員は、小川典子（審査委員長）、オルテンス・カルティエ＝ブレッソン（フランス）、ダン・タイ・ソン（ベトナム）、ポール・ヒ

ューズ（イギリス）、ペーテル・ヤブロンスキー（スウェーデン）、児玉桃（日本）、エヴァ・クピーク（ポーランド）、ベジャ・ムジエヴィッチ（アメリカ）、ロナン・オホラ（イギリス）、イリヤ・ラシコフスキー（ロシア）、迫昭嘉（日本）の11名。

小川典子委員長は講評で「6年ぶりのコンクールで出場者の年齢層は高くなっていたが、若い人たちの演奏はそれが素晴らしい内容でした。いつの時代も若い音楽家たちによって（演奏を）進化させていくのだらうと思います。」と語った。

第1位の鈴木愛美さんはインタビューで「大変なことになったが嬉しい。今後も日々真摯に作品に向き合い、研鑽を重ねていきたい。モーツァルト、ベートーヴェン、シューベルトなどのドイツ音楽に親近感があるので、そこにスポットが当たったコンクールへの挑戦や、また、可能ならドイツ語圏の音楽大学に留学したいと思っています。」と喜びと抱負を述べている。

「浜松国際ピアノコンクール」の上位入賞者からは、チャイコフスキー国際コンクール（第4回第2位の上原彩子）や、ショパン国際ピアノコンクール（第5回第2位のラファウ・ブレハッチや第7回第1位のチョ・ソンジン）の覇者も生まれている。上位入賞者の今後の活躍が期待される。

大坪 盛（おおつぼ・しげる）

音楽編集者、音楽ジャーナリスト。富山県出身。クラシック音楽関係の雑誌、単行本の出版に携わる。